

チベット木版印刷プロジェクトとその構成メンバー

伏見 英俊

Tibetan Printing Projects and Their Staff Member

FUSHIMI Hidetoshi

As a preliminary consideration for research into xylographic editions in Tibetan non-canonical literature, in this paper I have attempted to research the xylographic printing projects on Tibetan non-canonical literature and the members that composed those projects, chiefly focusing on block prints related to the Sa-skyapa tradition. This research first takes a general view of early period wood-block printing such as the Old Sa-skyapa edition, of the Derge edition of the 1730s, and of early modern age wood-block printing, etc. Based on the descriptions in the *Sa skya bka' bum*, I then took the persons in charge of each wood-block printing work into consideration. Finally, I introduced some of the methods of analyzing woodcut information from the various traces left in the print blocks.

キーワード：チベット，仏教，木版本，旧Sa-skyapa版，サキヤ派

はじめに

チベットは、吐蕃王国の成立以来20世紀に至るまで、常に中国を始めとする周辺諸国から政治的・文化的な影響を受けながらも、独自の文化を形成しつつ後世に伝えてきた。とりわけ仏教を中心とした精神文化は、チベット史を語る上で極めて重要な要素であると考えられる。本稿では、チベットの仏教文化の中でも他の地域にはあまり見られないチベット様式の木版本に着目し、木版印刷プロジェクトの解明という観点から蔵外文献の木版印刷について考察して行きたい¹⁾。

チベットにおける蔵外文献の木版印刷では、まず祖師の教えを普及させるという宗教的動機を指摘することができよう。そして、筆写に費やす労力の軽減と筆写に伴う誤記の回避という点に木版本の利用価値があったものと考えられる²⁾。さらに、木版本の普及に伴い、木版テキストそのものが標準的なテ

-
- 1) 蔵外文献の木版印刷は、Derge版『Sa-skyapa派全書』のようにチベット大蔵経の印刷プロジェクトと密接な関係にある場合が少なくないが、蔵外文献の木版印刷は、チベット国内における大蔵経の印刷よりもはるかに早い時期（ca. 15c. 初）にスタートしていたことから、本研究では、チベット大蔵経の印刷プロジェクトを直接研究の対象とはしなかった。伏見英俊「蔵外文献木版印刷についての一考察」（『日本西蔵学会々報』第48号，2002年），p. 51参照。
 - 2) 木版本の普及する以前のチベットでは、筆写に伴う誤記がテキストを理解する上で問題となることも少なくなかつ

キストとして利用されるようになったという木版本の情報伝達媒体としての特質も認められる³⁾。したがって、木版印刷されたテキストが、後世に多大な影響を与えたことは疑いの余地がないであろう。

また、木版本のコロフォンやテキスト印刷部分の欄外には、個々の木版印刷プロジェクトに関する種々の情報が残されており、それらを歴史資料と照合することにより、個々の木版印刷プロジェクトの実態を解明することが可能となる。例えば、木版印刷プロジェクトの構成メンバーやプロジェクトの規模、そして作業工程などが明らかになろう。さらに木版本研究により、祖師の著作に対する需要という当時のチベットにおける宗教的背景、施主の祈願内容に見られる社会情勢を始めとする政治的背景、木版印刷の資材調達に関する経済的背景、あるいは木版印刷を支える文化的成熟度などを知ることができると、個々の木版情報はチベット文化史研究の基礎資料として極めて重要であると言えよう。

蔵外文献の木版印刷の中でも、15世紀にチベットで開版された二つのSa-skya派の木版印刷（旧Sa-skya版とGong-dkar-ba版）は、チベットの木版印刷史上、種々の観点からその重要性が注目される。筆者はSa-skya派研究の一環として蒐集してきた文献を基に、先行する研究の中で、上述の15世紀の木版印刷について、

- 1) 旧Sa-skya版はチベットにおける初期の木版印刷本の一つであること。
- 2) Gong-dkar-ba版は、後世の木版印刷プロジェクトにおいて、木版印刷の底本作成のための標準的なテキストの一つとして採用されていること。
- 3) 1730年代に開版されたDerge版『Sa-skya派全書』は、必ずしも批判的にテキストを校訂したわけではなく、厳密な文献研究には、Derge版以外の木版本・写本をも参照する必要があるため、古い写本に基づく15世紀のSa-skya派の木版本が文献資料として重要であること。
- 4) 中国からどのような経緯で木版技術がチベットに齎されたかを考察する上で、貴重な資料であること。

等の重要性を指摘した⁴⁾。本稿は、上述の研究成果を発展させ、木版印刷プロジェクト研究の方法論を試みたものである。

一 チベットの木版プロジェクト

いつ頃からチベットで、木版印刷が行われていたかについては明らかではないが、おおよそ15世紀の初め以降のことではないかと推定されている。年代が記録されている初期の木版本の例としては、チベ

た。例えば、Chag Lo-tsa-ba Chos-rje-dpalはSa-skya Paṇḍita宛ての書簡の中で、自分の入手した*sDom gsum rab dbye*の写本は誤記が多いので、正しい写本を送って欲しいと依頼している。このことから写本の誤記が当時のチベット人たちにとって、深刻な問題となりつつあったことがわかる。一方、木版本の普及以降も、筆写による善根積集という目的で、宗教的な実践としての筆写が行われてきたものと考えられる。

- 3) チベットにおける木版本の普及時期は必ずしも明確ではない。しかし、sNar thang版とDerge版大蔵経が相次いで開版されたことから考えて、少なくとも18世紀には木版本が普及していたと考えて問題はないであろう。
- 4) 伏見英俊「蔵外文献木版印刷についての一考察」, pp. 51-68.

ット人による著作ではないが、1419年の *Guhyasamājantra* と *Pradīpoddyotana* の木版印刷がある⁵⁾。また、チベット撰述文献の木版印刷としては、1426年の Tsong-kha-pa (1357-1419) の *sNgag rim chen mo* の旧 dGa'-ldan 版などが知られている⁶⁾。

木版印刷は強力なスポンサーが存在しないと実現することが難しいため、木版文化史研究には該当する時代の政治勢力への詳細な言及が必要不可欠であるが、すべての木版プロジェクトについて当時の政治勢力との関係を明らかにすることは容易なことではない。そこで以下では、一例として Sa-skya 派関連の木版文化史を中心に、蔵外文献の木版印刷の概略を紹介して行くことにしたい。

1 チベット国外の木版印刷

チベット国内での木版印刷に先駆け、hor par ma すなわちモンゴルにおいて木版印刷されたものが、一つの標準的なテキストとして使われていたことがいくつかの文献によって確かめられる⁷⁾。例えば、Sa-skya Paṇḍita (1182-1251) の主要著作 *sDom gsum rab dbye* の hor par ma⁸⁾ と *Tshad ma rigs gter* の hor par ma⁹⁾ が、15世紀の Sa-skya 派の注釈家たちによって参照されていた。van der Kuijp 氏の調査によれば、*Tshad ma rigs gter* 自註の二種類の hor par ma が現存し、その中の一つは、1284年に印刷された可能性があるという¹⁰⁾。さらに、他の hor par ma の例としては、Nying-ma 派テキストが元朝の仁宗皇帝 (1285-1320) の支援を受けて木版印刷された事実などが指摘できよう¹¹⁾。

また、中国では明の永楽帝の支援により、1410年に北京で永楽版 bKa' 'gyur が開版された¹²⁾。これが最初のチベット大蔵経の木版印刷であった。残念ながら、永楽版の版木は今日に伝わらないが、チベッ

-
- 5) David Jackson. "The Earliest Printings of Tsong-kha-pa's Works: The Old dGa'-ldan Editions." *Reflections on Tibetan Culture: Essays in Memory of Turrell V. Wylie*, p. 107. New York: The Edwin Mellen Press, 1990; Franz-Karl Ehrhard. *Early Buddhist Block Prints from Mang-yul Gung-thang*, p. 11. Lumbini: Lumbini International Research Institute, 2000.
- 6) David Jackson. "More on the Old dGa'-ldan and Gong-dkar-ba Xylographic Editions." *Studies in Central and East Asian Religions*, vol. 2, 1989, pp. 2-5.
- 7) hor par ma を元朝における木版印刷と考えれば、1279年から1368年の間に作成されたことになるが、この点についてはさらに詳細な検討が必要であろう。
- 8) Sa-skya 寺の高官を務めた Las-chen gZhon-nu-seng-ge (fl. ca. 15c.) は、チベット仏教の問題点を種々に論じた Sa-skya Paṇḍita の *sDom gsum rab dbye* の hor par ma を用いて註釈書を著わしたという。Ngag-dbang-chos-grags. *Pod chen drug gi 'bel gtam* (Thim-phu: Kunsang Topgyal and Mani Dorje, 1979), p. 258.2-3; David Jackson. "Commentaries on the Writings of Sa-skya Paṇḍita: A Bibliographical Sketch." *The Tibet Journal*, vol. 8-3, 1983, p. 15.
- 9) Sa-skya Paṇḍita の論理学書 *Tshad ma rigs gter* の hor par ma が、Sa-skya 派の学匠 Go-rams-pa (1429-1489) と Shākya-mchog-ldan (1428-1507) によって、それぞれの註釈文献の中で参照されていた。David Jackson. *The Entrance Gate for the Wise*. Wien: Arbeitskreis für Tibetische und Buddhistische Studien, 1987. Vol. 1, p. 73.
- 10) van der Kuijp. "Two Mongol Xylographs (Hor par ma) of the Tibetan Text of Sa Skya Skya Paṇḍita's Work on Buddhist Logic and Epistemology." *JLABS*, vol. 16-2, 1993, pp. 279-283.
- 11) Franz-Karl Ehrhard. "Recently Discovered Manuscripts of the rNying ma rGyud 'bum from Nepal." *Tibetan Studies*. Wien: Verlag der Österreichischen Akademie der Wissenschaften, 1997. Vol. 1, pp. 262-263, n. 23.
- 12) 羽田野伯献「永楽版チベット大蔵経おぼえ書き」(『羽田野伯献 チベット・インド学集成全集 第二巻』法蔵館, 1987年), pp. 327-356.

トのSe-ra寺に永楽版の木版本が所蔵されている¹³⁾。この永楽版が完成後まもなく、チベット国内で使用されるようになったことは想像に難くない。例えば、永楽版のチベットへの影響は、木版本の仏画の中にいち早く現れたことから理解されよう。チベットの木版本には各巻の初めと終わりに尊像が刻まれていることが多いが、永楽版の影響で15世紀にチベットで開版された木版本にはチベット流の仏画だけでなく、中国流の仏画が採用されるようになったという¹⁴⁾。

このように、チベットでは木版印刷が開始される以前すでに、国外で作成された木版本が種々の機会に使用されていた。このことは、チベット国内の木版本に対する需要の高まりに対して、国内での木版技術が未成熟であったという事情を反映したものと推測され、それを克服しようとする動きが15世紀の木版本の開版へと繋がって行ったと考えられる。

2 初期の木版印刷

(1) 旧dGa'-ldan版

Sa-skya派の木版プロジェクトではないが、最も早い時期の蔵外文献の木版印刷として、1420-1430年代にかけてTsong-kha-pa (1357-1419)の著作集出版を目指した旧dGa'-ldan版を挙げる必要がある。Tsong-kha-paはdGe-lugs派の創設者にして、チベット仏教の発展に最も多くの影響を与えた人物であった。彼は晩年、木版印刷に個人的に関心を持っていたとされ、彼の遺志を実現するために、旧dGa'-ldan版の木版プロジェクトが組織されたと考えられる。この木版印刷は、当時の中央チベットの実力者Phag-mo-gru派Grags-pa-rgyal-mtshan (1374-1432)の命により実行に移された¹⁵⁾。旧dGa'-ldan版のテキストとしては、Tsong-kha-paの*sNgags rim chen mo*, *Lam rim chen mo*, *Lam rim 'bring po*などの著作が数点現存することが報告されている¹⁶⁾。

(2) 旧Sa-skya版

旧Sa-skya版は、15世紀の中ごろ、チベットのSa-skya近郊Lhun-grub-dge-'phelで進められた木版印刷プロジェクトである。このプロジェクトで印刷された木版本のうち、Sa-skya Paṇḍitaの*Sa-skya legs bshad*, *sDom gsum rab dbye*, *Thub pa'i dgongs gsal*の三つの著作の木版本が現存する¹⁷⁾。

*Thub pa'i dgongs gsal*の木版本のコロフォンによれば、Kun-dga'-dbang-phyug¹⁸⁾ (1418-1462)が若くして死別した父Blo-gros-rgyal-mtshan-dpal-bzang-po¹⁹⁾ (1366-1420)の追善供養のために自ら施主となって、

13) 越智淳仁「セラ寺・永楽版とデプン寺・リタン版について」(『日本西蔵学会々報』第41-42号, 1997年), pp. 23-27.

14) デイヴィット・ジャクソン『チベット絵画の歴史』(平河出版社, 2006年), pp. 118-119.

15) David Jackson. "The Earliest Printings of Tsong-kha-p's Works: The Old dGa'-ldan Editions," pp. 107-116.

16) David Jackson. "More on the Old dGa'-ldan and Gong-dkar-ba Xylographic Editions," pp. 1-10.

17) 伏見英俊「蔵外文献木版印刷についての一考察」, pp. 52-56.

18) Kun-dga'-dbang-phyugの略伝については、A-mes-zhabs, *gDung rabs chen mo* (Beijing: Mi rigs dpe skrun khan, 1986), p. 259参照。

19) 彼の略伝は、A-mes-zhabs, *gDung rabs chen mo*, pp. 258-259に記録されている。

1439年に木版印刷されたという²⁰⁾。コロフォンには他に、木版用原本担当者、三人の刻字担当者、印刷用木材の担当者、校閲者などの木版印刷プロジェクトのメンバーが記録されている²¹⁾。さらに、この木版印刷の施主Kun-dga'-dbang-phyugの名前が、木版本の第一葉にパクパ文字で印刷されているという珍しい木版本である。

*sDom gsum rab dbye*は、木版本のコロフォンによれば²²⁾、Blo-gro-rgyal-mtshanやNam-mkha'-bzang-poを始めとする今は亡きラマたちの遺志を全うし（dgongs rdzogs）、Kun-dga'-dbang-phyugとgZhon-nu-rgyal-mchogなどの長寿を祈願するために木版印刷されたという。*sDom gsum rab dbye*も*Thub pa'i dgongs gsal*と同じ場所で同じ時期に木版印刷されたと予想されるが、残念ながら*sDom gsum rab dbye*のコロフォンには、印刷年代も印刷場所も明記されていない。コロフォンには、木版印刷の施主と木版責任者（do dam）の名前の他に、版木への刻字担当者（spar brkos）として'Jang-pa Nam-mkha'-'byung-gnasの名前が記録されているが、彼の名前は、実は木版本の第一葉のbottom marginにも刻まれている。チベット大蔵経研究の第一人者Helmut Eimer氏によれば、刻字担当者の名前がbottom marginに刻まれているのは、初期の木版本の特徴であるという²³⁾。したがって、旧Sa-skya版の*sDom gsum rab dbye*は、bottom marginに刻字担当者の名前が刻まれているという点で、チベットの初期の木版本の特徴を持つものと考えて問題ないであろう。

(3) Gong-dkar-ba版

旧Sa-skya版以外のSa-skya派関連の初期木版本としては、Sa-skya派の祖師の著作集からなるGong-dkar-ba版が開版されている。このGong-dkar-ba版は、Gong-dkar-rdo-rje-gdan-pa Kun-dga'-rnam-rgyal（1432-1496）が施主となり、1450年代に印刷されたものであるとされる。木版印刷プロジェクトのメンバーとしては、校閲責任者、刻字担当者などの名前が個々のプリントコロフォンに刻まれている。Gong-dkar-ba版のテキストは、現在までのところ、bSod-nams-rtse-mo（1142-1182）、Grags-pa-rgyal-mtshan（1147-1216）、Sa-skya Paṇḍita（1182-1251）、'Phags-pa（1235-1280）の著作のうち合計16の著作が木版印刷されたことが報告されている²⁴⁾。

Gong-dkar-ba版は、初期の木版本であるという事実だけでなく、18世紀のDerge版『Sa-skya派全書』の編纂者が、いくつかのGong-dkar-ba版を校合資料として参照していたことから、木版本としての重要性が指摘できよう²⁵⁾。このことは、初期の木版本が標準的なテキストの一つとして後世の木版印刷で

20) David Jackson. "Notes on Two Early Printed Editions of Sa-skya-pa Works." *The Tibet Journal*, vol. 8-2, 1983, p. 7.

21) David Jackson. "Notes on Two Early Printed Editions of Sa-skya-pa Works," p. 17.

22) Hidetoshi Fushimi. "Recent Finds from the Old Sa-skya Xylographic Edition." *Wiener Zeitschrift für die Kunde Südasiens*, vol. 43, 1999, pp. 97-98及び103-105参照。

23) Helmut Eimer. "Two Blockprint Fragments of Mi la ras pa's mGur 'bum Kept in the Wellcome Institute, London." *Zentralasiatische Studien*, vol. 26, 1996, p. 12.

24) David Jackson. "Notes on Two Early Printed Editions of Sa-skya-pa Works," pp. 7-16; do. "More on the Old dGa'-ldan and Gong-dkar-ba Xylographic Editions," pp. 10-17.

25) David Jackson. *The Entrance Gate for the Wise*, vol. 1, p. 233.

参照されたことを示しており、木版本研究上極めて重要な例であると考えられる。

3 18世紀のDerge版『Sa-skya派全書』

Derge版『Sa-skya派全書』は、Sa-skya派の五祖師（sa skya gong ma lnga）— Kun-dga'-snying-po（1092-1158）、bSod-nams-rtse-mo、Grags-pa-rgyal-mtshan、Sa-skya Paṇḍita、'Phags-pa — の著作集出版を目標とした木版印刷プロジェクトによって実現された。『Sa-skya派全書』木版プロジェクトは、1734年Derge王bsTan-pa-tshe-rinが施主となって始まり、Zhu-chen Tshul-khrims-rin-chen（1697-1774）を始めとする編纂者によって木版印刷作業が進められ1736年に完成した。厳密な文献研究のためには、Derge版『Sa-skya派全書』所収のテキストにも訂正すべき箇所が少なくないが、Derge版は長い間チベットでSa-skya派の標準テキストとして使われてきたことから、チベットにおけるDerge版の権威が窺われる。

実際の編纂作業については、Zhu-chen Tshul-khrims-rin-chenの『自伝』およびDerge版『Sa-skya派全書目録』から知ることができ、その規模と技術力は、以前の木版本をはるかに超えるものであったことがわかる。Derge版『Sa-skya派全書』木版印刷プロジェクトの構成メンバーについては後述するので、ここではプロジェクトの詳細に言及することは省略するが、Derge版『Sa-skya派全書』の特徴に若干触れておくことにしたい。『Sa-skya派全書』について、蔵外文献の木版印刷史研究上特筆すべきことは、祖師の著作を可能な限り収録するためにNgor寺第4世Kun-dga'-dbang-phyug（1424-1478）がKham地方から取り寄せた稀観本なども採用し²⁶⁾、印刷用底本作成のために8つの「著作集（写本）」とGong-dkar-ba版の木版本を参照し、さらに新旧の語彙を対照して綴り字の統一化を計ったことなどの組織的な編纂作業が挙げられるであろう²⁷⁾。

4 20世紀の稀観本出版プロジェクト

チベットでは、今日に至るまで多くの学僧によって、仏教思想・歴史・絵画理論を始めとする種々の著作が著わされてきた。とりわけ11世紀から14世紀にかけての仏教文献は、後世のチベット仏教に多大な影響を与えたことが知られている。しかしながら、それらの文献の中には、何らかの事情で後世のチベット人たちが直接参照できない著作も少なくなかった。例えば、Sa-skya Paṇḍitaは仏教の学説分類の詳細については、彼自身の*Grub mtha' rnam 'byed*を参照すべしと繰り返し述べているが²⁸⁾、Sa-skya Paṇḍitaの*Grub mtha'*は彼の没後早い時期に失われてしまったものと考えられ、彼の学説分類の詳細は現在でも不明のままである²⁹⁾。

チベットでは19世紀から20世紀にかけて、当時披見することが困難になった稀観本の木版計画が試みられている。ここでは、後世の木版印刷の一例として、Ris med（無宗派）運動の中で実現された稀観本の木版印刷を取り上げ、その木版プロジェクトについて紹介しておきたい。

26) David Jackson. *The Entrance Gate for the Wise*, vol. 1, p. 225, n. 29.

27) David Jackson. *The Entrance Gate for the Wise*, vol. 1, pp. 232-235.

28) 例えば、*Thub pa'i dgongs gsal* (D), p. 24. 4. 3; *Tshad ma rigs gter* 自註 (D), p. 172. 2. 1参照。

29) Sa-skya Paṇḍitaの*Grub mtha'*については、David Jackson. “Two *Grub mtha'* Treatises of Sa-skya Paṇḍita—One Lost and One Forged.” *The Tibet Journal*, vol. 10-1, 1985, pp. 3-13参照。

Ris med運動の一環として、Dergeあるいはその近郊で*gDams ngag mdzod*や*Rin chen gter mdzod*を始めとする多くの木版印刷が行われた。Blo-gter-dbang-po（1847-1914）による'*Jam-dbyangs mKhyen-brtse'i-dbang-po*（1820-1892）の『伝記』には、'*Jam-dbyangs mKhyen-brtse'i-dbang-po*を中心とした稀覯本の木版印刷プロジェクトが記録されている³⁰⁾。Blo-gter-dbang-poによれば、このプロジェクトでは、rMa-bya（ca. 12c.）の『中論註』、'U-yug-pa（ca. 12c.-13c.）の『*Pramāṇavārttika*註』、mChims 'Jam-pa'i-dbyangs（ca. 13c.）の『俱舍論大註』、Red-mda'-ba（1349-1412）の『入中論註』、Rong-ston（1367-1449）の『現觀莊嚴論註』と『宝性論註』などの12世紀から15世紀にかけての重要な著作が木版印刷されていたことがわかる。mKhyen-brtse'i-dbang-poの企画したこれらの木版プロジェクトでは、12～15世紀の重要な著作が木版印刷されていたことから、重要典籍の共有というRis med運動の目指していた一つの方向性が理解されるであろう。

二 木版印刷プロジェクトの構成メンバー

我々が今日、手にすることのできる木版本は、当時のチベットにおいて木版本の規模に応じて木版印刷プロジェクトが組織され、必要な資財が投入された結果齎されたものである。

羽田野伯猷氏は18世紀に開版されたDerge版大蔵経の『bsTan 'gyur目録』（東北No. 4569）の記録を基に、木版印刷の各担当者の賃金を考察し³¹⁾、David Jackson氏はDerge版『Sa-skya派全書』の『目録（dkar chag）』に基づき、各担当者の賃金を報告している³²⁾。本研究では、Derge版大蔵経とほぼ同時期に開版されたDerge版『Sa-skya派全書』の『目録』から木版プロジェクトのメンバーの語彙を取り出し³³⁾、Jackson氏の研究に加え、羽田野氏の研究も参照しながら各担当者の役割を考察して行きたい。また、後世の著作ではあるが、Dung-dkar Rin-po-che（1927-1997）が記した木版印刷の作業工程に関する研究も必要に応じて参照することにした³⁴⁾。

各担当者の語彙の中でも「施主（sbying bdag）」「校閲者（zhus dag pa）」「浄書係（bris pa）」「刻字工（brkos pa）」は、多くのコロフォンの中で良く目にするものであり、社会的地位も決して低くなかったものと予想される。特に、「施主」と「校閲者」は、その時代あるいは地域を代表する人物である場合が少なくなく、歴史文献との照合によりプロジェクトの概要を知ることができるため、木版プロジェクト解明のキーパーソンであると考えられる。ただし、18世紀に開版されたDerge版『Sa-skya派全書』はその内

30) Blo-gter-dbang-po. *rJe btsun bla ma thams cad mkhyen cing gzigs pa 'jam dbyangs mkhyen brtse'i dbang po kun dga' bstan pa'i rgyal mtshan dpal bzang po'i rnam thar mdor bsdu pa ngo mtshar u dumba ra'i dga' tshal*. Lam 'bras slob bshad (Dehra Dun: Sakya Centre, 1983), vol. 8, p. 141.3-6.

31) 羽田野伯猷「チベット大蔵経おぼえがき」（『羽田野伯猷 チベット・インド学集成全集 第二巻』法蔵館，1987年），pp. 364-368。

32) David Jackson. *The Entrance Gate for the Wise*, vol. 1, pp. 232-236.

33) 『Sa-skya 派全書目録』（『Sa-skya 派全書』vol. 7），p. 341.1.4-341.3.6.

34) 『Dung-dkar Rin-po-che 選集』（*Dung dkar blo bzang 'phring las kyi gsung rtsom phyogs bsgigs*. 中国藏学出版社，1997年），pp. 406-451. 本テキストの存在については、京都大学の加納和雄氏からご教示頂きました。

容から蔵外文献の木版印刷と見做し得るが、Derge版大蔵経編纂に伴う技術力の蓄積に加え、木版印刷に関わる資財も充分に供給された大規模プロジェクトであったという点に注意しておく必要がある。15世紀に開版された初期の蔵外文献では、技術・資財・プロジェクトの規模のいずれにおいても同等に論じる訳にはいかないが、以下ではDerge版『Sa-skyia派全書』の印刷プロジェクトを一つの出発点として、木版印刷プロジェクトの構成メンバーについて考察して行くことにしたい。

1 施主 (sbyin bdag)

これは言うまでもなく、木版本作成のスポンサーであり、政治的指導者である場合が多い。特に施主の祈願内容から当時の様子を知ることができるため、木版プロジェクトを解明するには祈願内容を看過するわけにはいかない。例えば15世紀中葉に開版された旧Sa-skyia版の場合、幼くして死別した亡父への追善供養という祈願内容、あるいは政治的指導者と老僧の長寿祈願という施主の祈願内容がコロフォンに記録されている。また、特殊な例ではあるが、旧Sa-skyia版の*Thub pa'i dgongs gsal*の版木には、第一葉裏のright marginに施主の名前がパクパ文字で印刷されている場合があり、版木に残された施主に関する記述に着目する必要がある³⁵⁾。

なお、Derge版『Sa-skyia派全書』の場合は、第30代Ngor寺座主bKra-shis-lhun-grubの開版要請に対して、Derge王bsTan-pa-tshe-ringが施主となって実現した。この木版印刷を成功させるために、Derge王bsTan-pa-tshe-ringは彼の大臣gNyer-pa A-srungに木版プロジェクト全体の監督を命じ、さらに秘書 (drung yig) Tshe-ring-'phelと会計 (phyag mdzod) Gu-ru-bkra-shisに作業担当者の管理を命じた。また、版木の所蔵等を木版責任者 (par dpon) gZung-skyabsが担当し、Tshul-khrims-rin-chen (1697-1774)は木版印刷の主任校閲者 (zhus chen) を努めた³⁶⁾。

2 校閲者 (zhus dag pa)

木版印刷工程の中には、いくつかの校閲作業があったと考えられる。中でも印刻用底本の校閲・訂正作業、版木の校閲作業などが代表的なものであろう。羽田野氏によれば、Derge版大蔵経の場合、校閲者に対する賃金は「印刻用底本の校閲・訂正担当者」に対しては、技能に応じて一人一日当たり大麦22, 14, 13ドン ('dong) が支払われ、「版木校閲者 (par zhus pa)」に対しては、一律13ドン支払われたとされる³⁷⁾。また、Derge版『Sa-skyia派全書』の場合、『Sa-skyia派全書目録』の賃金支払いリストによれば、校閲内容による賃金の差はなく、校閲者に対して一人一日当たり11ドン支払ったと記録されている³⁸⁾。一

35) 伏見英俊「蔵外文献木版印刷についての一考察」, pp. 52-53.

36) David Jackson. *The Entrance Gate for the Wise*, vol. 1, p. 232; 『Sa-skyia派全書目録』, p. 341.1.6-341.2.2. 小規模プロジェクトでは、しばしば木版作業の統括者としてdo damという役職名が記録される。Hidetoshi Fushimi. "Recent Finds from the Old Sa-skyia Xylographic Edition," p. 98.

37) 羽田野伯猷「チベット大蔵経おぼえがき」, pp. 366-367; 『bsTan 'gyur目録 (東北No. 4569)』, f. 323b.2-6.

38) David Jackson. *The Entrance Gate for the Wise*, vol. 1, p. 235; 『Sa-skyia派全書目録』, p. 341.3.4. なお、木版作業の従事者には個々の望みに応じて、馬、家畜、お茶、綿布などが支払われたが、『Sa-skyia派全書目録』では賃金を大麦の量に換算して記録している。

見『Sa-skya派全書』校閲者の賃金の方が低額になっているようにも思えるが、両印刷プロジェクトの規模が異なるため、単純には比較できないであろう。『Sa-skya派全書目録』には校閲内容に区別なく賃金が支払われていたと記録されているが、賃金支払いリストの配列から考えて、リスト中の校閲者には「印刻用底本の校閲・訂正担当者」も含まれていたものと考えられる。

なお、Dung-dkar Rin-po-cheの記述によれば、「校閲者（zhus dag pa）」の作業には、印刻用の底本（ma dpe）と浄書（par yig）を比較しての校閲作業を始めとする四種類の作業があるという³⁹⁾。

3 仏画絵師（lha bris pa / lha ris pa）・仏像彫刻師（dbu lha'i brkos pa）

チベットの木版本には各巻の初めに仏像が印刷されることが多い。Derge版『Sa-skya派全書目録』の賃金支払いリストには、仏画絵師への支払い記録はないが、Derge版大蔵経『bsTan 'gyur目録』で言及されているように、作業工程としては、まず仏画絵師が尊像を描いて、それに基づき仏像彫刻師が彫るという手順になるであろう⁴⁰⁾。『Sa-skya派全書目録』の賃金支払いリストに仏画絵師への言及がないのは、『Sa-skya派全書』の仏画はすべて単独の絵師によって描かれたという事実を反映しているのかもしれない⁴¹⁾。残念ながら、この傑出した絵師の名前は今日に伝わらないが、木版印刷の仏画絵師が当代一流の絵画製作者であったということは注目に値するであろう⁴²⁾。

Derge版『Sa-skya派全書』の主任校閲者Tshul-khrims-rin-chenは、仏教絵画制作を生業とする絵師の家系に育った後、出家した人物であった。彼は『Sa-skya派全書』の編纂者としてだけではなく、図像学理論と技法実践の両面からメンタンバ流の絵画技法の優越性を主張した人物としても知られている⁴³⁾。またTshul-khrims-rin-chenによれば、Derge版大蔵経『bsTan 'gyur』の仏画は、ボン教徒のsMad-shod A-'phelという一流の絵師によって制作されたという⁴⁴⁾。『bsTan 'gyur目録』には、仏画絵師に対する支払い記録が残されていて、各巻の初めに描かれる二尊ごとに大麦25ドン支払われ、プロジェクト全体では絵師に大麦135カル（khal）が支払われたとされる⁴⁵⁾。

また仏像彫刻者には、『Sa-skya派全書』の作成では一尊当たり、大麦1カルと2ショウ（zho）が支払われたのに対して、大蔵経『bsTan 'gyur』の作成では二尊当たり、3カルが支払われたと記録されている⁴⁶⁾。

39) 『Dung-dkar Rin-po-che選集』, pp. 416-417.

40) 『Sa-skya派全書目録』, p. 341.3.4; 『bsTan 'gyur目録』, f. 323b.3.

41) デイヴィット・ジャクソン『チベット絵画の歴史』, p.275; Zhu-chen Tshul-khrims-rin-chen. *The Autobiography of Tshul-khrims-rin-chen of Sde-dge and Other of His Selected Writings* (New Delhi: N. Lungtok and N. Gyaltan, 1971), p. 476.2.

42) 『チベット絵画の歴史』, p. 275によれば、この絵師による図像はsMad-shod A-'phelの画風に似ているが、別の人物ではないかとされる。

43) 『チベット絵画の歴史』, p. 272.

44) 羽田野伯猷「チベット大蔵経おぼえがき」, p. 366; 『チベット絵画の歴史』, p. 275; 『bsTan 'gyur目録』, f. 316a.2-3.

45) 『bsTan 'gyur目録』, f. 323b.3.

46) 『Sa-skya派全書目録』, p. 341.3.4; 『bsTan 'gyur目録』, f. 323b.3-4.

4 浄書係 (bris pa)

文字通り印刻用テキストの浄書担当者である。小規模プロジェクトでも、コロフォンに名前が記載されることが多いので、社会的身分も決して低くはなかったものと考えられる。『Sa-skya派全書目録』によれば、プロジェクト全体で16人の浄書担当者が参加したという⁴⁷⁾。同じ『目録』には、浄書担当者の賃金は技能に応じて上中下の三つの等級があり、三通りに賃金が支払われたと記録されている⁴⁸⁾。

5 刻字工 (brkos pa)

これは木版を実際に彫る職人であったと考えられる。木版本の浄書係や刻字工の名前が歴史文献に記載されることはほとんどないが、浄書係と同様にコロフォンに記載されることが多いので、刻字工の社会的身分が注目される。しかも、同一の木版プロジェクトでは同じ刻字工が複数テキストの印刻を担当していたものと考えられ、当時の作業分担を考察する際の貴重な資料と言えよう。また、15世紀中葉に開版された旧Sa-skya版を始めとする初期の木版印刷では刻字担当者の名前がbottom marginに刻まれる場合がある。これについては幾つかの解釈が可能であろう⁴⁹⁾。例えば、

- 1) 社会的身分が高かった刻字工は、自分の名前を刻むことが許されていたこと。
- 2) 版木に刻まれた名前が賃金計算に使われたこと。
- 3) 供養の証しとしての記録。
- 4) 責任の所在を明記した。

等の可能性が指摘できよう。

また、『Sa-skya派全書目録』によれば、プロジェクト全体でおよそ150人の刻字担当者が参加したという⁵⁰⁾。同じ『目録』には、刻字担当者の賃金は技能に応じて四つの等級があったと記録されている⁵¹⁾。羽田野氏の計算によれば、Derge版大蔵経『bsTan 'gyur』の場合、1字を3分または3分20秒、あるいはもっと早いスピードで刻んだとされる⁵²⁾。

6 弾線工 (thig 'debs pa)

羽田野氏は行の区間割の墨ひきの可能性を示唆しているが、その実態は不明である。しかしながら『Sa-skya派全書目録』の賃金支払いリストでは、第4等級の刻字工と紙すき工の中間に配列され、一日当たり4ドンという低額の賃金であることから、おおよその作業水準が理解されるのではないだろう

47) 『Sa-skya派全書目録』, p. 341.3.3; Zhu-chen Tshul-khriims-rin-chen. *The Autobiography of Tshul-khriims-rin-chen of Sde-dge and Other of His Selected Writings*, p. 476.2.

48) 『Sa-skya派全書目録』, p. 341.3.4.

49) 伏見英俊「蔵外文献木版印刷についての一考察」, pp. 53-55.

50) 『Sa-skya派全書目録』, p. 341.3.3; Zhu-chen Tshul-khriims-rin-chen. *The Autobiography of Tshul-khriims-rin-chen of Sde-dge and Other of His Selected Writings*, p. 476.2-3.

51) 『Sa-skya派全書目録』, p. 341.3.4-5.

52) 羽田野伯猷「チベット大蔵経おぼえがき」, pp. 366-367.

か⁵³⁾。

7 紙すき工 (shog mkhan / shog gu'i 'du byed pa)・版木整備工 (shing gzhog mkhan / shing gzhog pa)

Derge版『Sa-skya派全書』は18世紀の大規模プロジェクトの例ではあるが、「紙すき工」の存在は、木版印刷用の紙がどこで調達されたかという疑問に答えてくれるかもしれない。中国の製紙技術は唐代にチベットに齎されたと考えられるが、その後のチベットにおける生産状況については明らかではない⁵⁴⁾。しかしながら、1736年に完成したDerge版『Sa-skya派全書』の『目録』に「紙すき工」と「版木整備工」への賃金支払いが記録されていることから、当時既に製紙作業と製材作業は印刻場所（Derge）の近郊で行われていた可能性が高い。このことは、木版本の資材調達という意味では重要であろう。ただし、同じ『Sa-skya派全書目録』には、「版木整備工」への賃金支払いとは別に「版木代」が計上されていることから、版木用木材は印刻場所とは別の場所から調達された可能性を否定できない⁵⁵⁾。

8 その他

Derge版『Sa-skya派全書』の木版プロジェクトでは、上述の作業内容に加え、印刻用底本（ma dpe）作成のために、事前に多くの写本・木版本蒐集作業が行われている。また、底本作成時には、新旧の綴り字チェックも実施され、綴り字の統一が為されたことも、この木版プロジェクトの一つの特徴である⁵⁶⁾。さらに、Derge版『bsTan 'gyur目録』には「食事代」が計上されており、当時の木版作業は賄い付きの作業であったと考えられている⁵⁷⁾。

三 木版情報の蒐集

最後に、コロフォンの解析作業以外に木版情報を蒐集する方法について考察して行きたい。コロフォンと歴史資料だけでなく、『版木所蔵目録』、版木に刻まれたbottom marginやleft marginの記録、複製本のプリントコロフォン（par byang）に残された木版情報について実例を挙げながら検討しておきたい。

1 『版木所蔵目録』

まず、中央チベットの114の木版印刷施設に残る版木を調査した記録である『版木所蔵目録』を取り上げておきたい。ここで筆者が『版木所蔵目録』と略称するのは、以下のテキストである。

53) 羽田野伯猷「チベット大蔵経おぼえがき」, p. 367; 『Sa-skya派全書目録』, p. 341.3.5.

54) 中国からの製紙技術の流入については、池田巧・中西純一・山中勝次『デルゲパルカン』（明石書店、2003年）、pp. 153-154参照。また、『デルゲパルカン』, p. 194によれば、版木も手すき紙もデルゲ近郊で調達したというが、18世紀においてもそのようであったという根拠は必ずしも明確ではない。

55) 『Sa-skya派全書目録』, p. 341.3.5-6.

56) David Jackson. *The Entrance Gate for the Wise*, vol. 1, p. 232-235.

57) 羽田野伯猷「チベット大蔵経おぼえがき」, p. 366; 『bsTan 'gyur目録』, f. 324a.1.

『版木所蔵目録』：

Gangs can gyi ljongs su bka' dang bstan bcos sogs kyi glegs bam spar gzhi ji ltar yod pa rnam nas dkar chag spar thor phyogs tsam du bkod pa phan bde'i pad tshal 'byed pa'i nyin byed. In: *Three Karchacks*, pp. 169-243.

これは網羅的な目録ではないが、著作名だけでなく、著者名と葉数も記録されている場合が多いので、木版印刷施設所蔵の版木を確認する際に有効である。

例えば、前述した旧dGa'-ldan版の*sNgags rim chen mo, Lam rim che chung*を始めとするTsong-kha-paの著作集がdGa'-ldan寺のZung-'ju-khams-tshanに所蔵されていたことが確かめられる⁵⁸⁾。また、Sa-skya派の学匠Go-rams-pa (1429-1489)の著作集には、後世Dergeで印刷されたものとは別の木版本セットが存在し、そのうち19の著作の版木がrTa-Nag Thub-bstan-rnam-rgyalに所蔵されていたことが確認できる。この版木はDerge版と葉数が異なるので別の木版本と考えられよう⁵⁹⁾。

2 版木のbottom margin (刻字工の名前)

刻字工の名前は通常コロフォンに記録されるが、すでに旧Sa-skya版*sDom gsum rab dbye*の箇所でも触れたように、初期の木版印刷では刻字工の名前が版木のbottom marginに刻まれていることがある。

他の例として、次の1546年の木版本を挙げておきたい。Bo-dong Paṅ-chen Phyogs-las-rnam-rgyal (1376-1451)の*Lam rim*解説書*sKyes bu gsum gyi lam rim rgyas pa khrid du sbyar ba*には、ほぼ10葉ごとに「以上は誰々が彫りました」とそれぞれの刻字担当者の名前がbottom marginに刻まれ、さらにプリントコロフォン (par byang) にも二人の刻字担当者の名前が残されている⁶⁰⁾。前述のように、bottom marginに刻まれた名前は、当時の刻字担当者の社会的地位を示唆するものとして注目しておきたい。

3 版木のleft margin (巻数, 葉数)

周知のように、チベットのペチャ・スタイルのテキストには、全集の中の巻数、各巻の通しページ数、各テキストの中のページ数などが記されているが、これもまた重要な木版情報の一つとして解釈し得る。

ここでは、まず旧Sa-skya版*sDom gsum rab dbye*の例を紹介しておきたい。旧Sa-skya版については以前考察したことがあるが、木版プロジェクト解明という観点から、再度触れておくことにしたい⁶¹⁾。

58) 『版木所蔵目録』, p. 201. 4-5; David Jackson. "More on the Old dGa'-ldan and Gong-dkar-ba Xylographic Editions," p. 115, n. 5.

59) 『版木所蔵目録』, pp. 233.6-234.4; David Jackson. "Commentaries on the Writings of Sa-skya Paṅḍita: A Bibliographical Sketch," p. 16; van der Kuijp. "Some Recently Recovered Sa-skya-pa Texts. A Preliminary Report." *Journal of the Nepal Research Centre*, vol. 7, 1985, pp. 89-90.

60) *Skyes bu gsum gyi lam rim rgyas pa khrid du sbyar ba : a detailed presentation of the Lam rim teachings of the Old Bka'-gdams-pa tradition* by Rje-btsun Gsan-ba'i-sbyin. New Delhi : Ngawang Topgye, 1979. 『チベット絵画の歴史』, p. 114に従い, *me pho rta yi lo* (テキスト:p. 606.3) を1546年と解釈する。

61) 伏見英俊「蔵外文献木版印刷についての一考察」, pp. 55-56.

*sDom gsum rab dbye*の旧Sa-skya版の各葉の表のleft marginには、巻数を表わす文字taが記録されていて、この巻が全体の中のvolume 9 (ta) として計画されていたことがわかる。しかし、このmarginal notation (ta) が示すように、実際に他の巻が印刷されたかどうかについては明らかではない。

*sDom gsum rab dbye*の旧Sa-skya版のleft marginには、巻数を表わす文字ta以外に二つのfolio番号 — チベット数字で表わされたvol. ta全体の通算folio番号 (nos. 21-62) とチベット文字で表わされた*sDom gsum rab dbye*のfolio番号 (nos. 1-42) — が記されている。旧Sa-skya版には*Sa skya legs bshad*・*sDom gsum rab dbye*・*Thub pa'i dgongs gsal*の三つの木版本が存在し、それぞれのleft marginに巻数を表わす文字taが記録されている⁶²⁾。したがって、これら三つの著作は、同一ボリューム (vol. ta) に収められるべきテキストとして、木版印刷計画が進められていたことが理解されよう。

*Sa skya legs bshad*のleft marginには、数字と文字で19までのfolio番号が付されているので、vol. taの最初のもは*Sa skya legs bshad*であったと考えられる⁶³⁾。そして、*sDom gsum rab dbye*のvol. ta全体の通算folio番号 (nos. 21-62) から判断して、*sDom gsum rab dbye*がvol. taの二番目に配置されるべく印刷されたと考えて問題ないであろう。

一方、*Thub pa'i dgongs gsal*のleft marginには、文字で書かれたfolio番号 (nos. 1-83) のみが記されていて、vol. ta全体の通算folio番号の欄は空白のままになっているので、*Thub pa'i dgongs gsal*のvol. taにおける配列が明らかではない。このleft marginの空欄をどう解釈するかについては、種々の可能性があるだろうが、*Thub pa'i dgongs gsal*の版木を作成する段階では、何らかの事情でvol. ta全体の通算folio番号が刻字担当者に知らされていなかったため、後で通算folio番号を刻むことができるように、空白のままにしておいたのではないかと解釈することも可能かもしれない。

4 複製本のプリントコロフォン

チベット文献のコロフォンは、著者のコロフォン (mdzad byang) と木版印刷時のプリントコロフォン (par byang) が存在する。ここでは、写本に受け継がれたプリントコロフォンの解明という観点から、実際の木版本としてではないが、現在に伝わる手書き複製本のコロフォンから木版本の存在が確かめられる例を見ておきたい。

Sa-skya派の註釈家Shākya-mchog-ldan (1428-1507) の主要著作は様々な機会に木版印刷され、木版本そのもの、あるいはその写本が『Shākya-mchog-ldan全集』(Thimphu, 24 vols.) 所収のテキストの原本として採用されていることが、個々のテキストのプリントコロフォンの存在から確かめられる。例えば、*dBu ma rnam par nges pa'i chos kyi bang mdzod lung dang rigs pa'i rgya mtsho*⁶⁴⁾、*Tshad ma rigs pa'i gter gyi rnam par bshad pa sde bdun ngag gi rol mtsho*⁶⁵⁾、*sDom pa gsum gyi rab tu dbye ba'i bstan bcos 'bel gdam rnam*

62) David Jackson. *The "Miscellaneous Series" of Tibetan Texts in the Bihar Research Society, Patna. A Handlist*, pp. 37 and 135. Stuttgart: Franz Steiner Verlag Wiesbaden, 1989.

63) 現存する*Sa skya legs bshad*は、fols. 1-6を欠く。

64) 木版情報は、*Collected Works of Shākya-mchog-ldan* (Thimphu: Kunzang Topgey, 1976), vol. 15, pp. 693.1-695.4参照。

65) 木版情報は、*Collected Works of Shākya-mchog-ldan*, vol. 19, p. 749.5-7参照。

*par nges pa legs bshad gser gyi thur ma*⁶⁶⁾などの主要著作は、木版印刷時のコロフォンを含んでおり、木版本として流布していたことがわかる。

おわりに

本研究では、一つの試みとしてサキャ派関連の文献を中心に、木版印刷プロジェクトの解明という観点から蔵外文献の木版印刷について種々に考察してきた。特に、今回の研究では、木版印刷プロジェクトの構成メンバーの分析、木版情報の蒐集方法、初期の木版本の特徴などに重点を置いて考察を試みた。近年、大量のチベット文献が入手できるようになったが、残念ながら、その分析方法等については未だ確立されていない部分が多い。そういう意味では、今回の研究も多少なりともチベット学に貢献できるかもしれない。

今後は、具体的な木版プロジェクト解明についての研究を続けながら、人名・地名を中心とした木版印刷データベース構築を一つの目標として研究計画を進めて行きたい。

(本研究は、文部科学省平成19年度科学研究費補助金(基盤研究(C))「チベット文献木版印刷プロジェクトの総合的解明」(課題番号19520057)による研究成果の一部である。)

66) 木版情報は、*Collected Works of Shākya-mchog-ldan*, vol. 7, pp. 223.1-229.5参照。